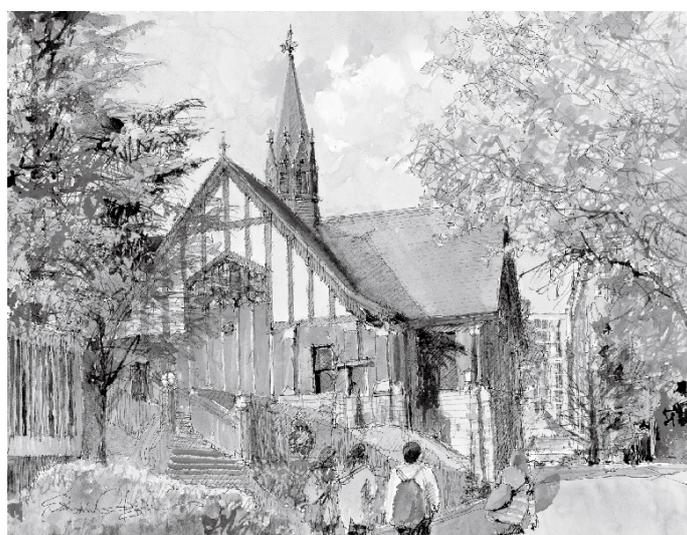


2021 年度（春学期）経済学部  
ゼミナールガイドブック



COOL HEADS BUT WARM HEARTS  
ALFRED MARSHALL

明治学院大学経済学部

## 渥美 利弘 ゼミナール

### 演習のテーマ

国際貿易

### 演習の内容

毎回各自の研究テーマに関連した発表をしてもらい、それをもとに全員で議論します。  
(3年春学期は共通の教材で国際貿易について学びます。2020年度はWTOのTrade Policy Reviewをもとに、日本の貿易政策を勉強しています。3年秋以降は各自国際貿易に関する卒業研究をします。) 選んだテーマに最後まで取り組むことで、一つのことを深く考え、それを他の人に説明し、きちんとした文章にするという経験をゼミで積んでいただきたいと考えます。

私自身は最近サービス貿易、自動車貿易そして偽造品の問題などについて、経済学の視点から研究をしています。私の関心分野やこれまでの研究について、詳しくは下記を参照してください。<https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp?resId=S000333>

## 井川 ジェニファー ゼミナール

### 演習のテーマ

Leadership in Literature

### 演習の内容

This seminar will examine the concept of Leadership through the experiences of characters in works of fiction.

During the first year, we will read and discuss works of fiction to help us consider what the characteristics of a good leader might be, and how those characteristics might contribute to success or failure. Students will be expected to *read extensively in English* to prepare for class. During class, students will be expected to *participate actively*. Students will gradually assume responsibility for leading class discussion. Students will be encouraged to consider questions that emerge from discussion as possible research topics. As students will also be expected to write summary and response papers, there will also be instruction in writing.

In the second year of the seminar, students will conduct independent research and write a graduation thesis on a relevant topic of their choice. Classwork will include scaffolded instruction in thesis writing and the presentation of oral research reports. Students will be encouraged to provide and make use of peer feedback.

# 岩尾 俊兵 ゼミナール

## 演習のテーマ

経営学の理論と実践

## 演習の内容

岩尾ゼミの活動は、主に 2 つある。一つは座学で経営理論について学び、さらに議論するという理論面での学習である。もう一つは、毎年何らかのプロジェクトがあり、それに 取り組むことで経営を実践してみるという実践面での学習である。

まず、理論面での学習方法について。ここでは、経営について「深く考える」ことを目的に、みんなで議論をおこなう。経営について考える必要はなにも経営者だけに限られたことではない。およそ人が集まる「組織」に所属する者にとって、「組織の中の他人に自分の意図を正しく伝える」ためにも論理的に経営を考える必要があり、自分の意図を正しく伝えなければいけないのは経営者だけでなく一介の新入社員であっても同様であるためである。そこで、ゼミナールでは、まずは徹底的に既存の経営学理論を学んでいき、その後その理論について批判したり、さらなる応用分野を考えたりする。

それによっ て、論理的に考え、理路整然とコミュニケーションができるようになることが目標である。具体的には、演習（ゼミ）では、輪読というオーソドックスなスタイルで、経営学・経営科学の基礎知識を身に着ける。輪読とは比較的高度な内容の本や論文を、少しずつ全員 で読み進めるといものである。毎回発表担当者が 1 章分ないし 1 論文を要約したレポートを全員の前で発表するが、他の学生も必ず当該文献を読んでおき、発表者に対して質 疑および討論をおこなう。

演習前期では 1 冊の本を読んでいくのに対して、演習後期 では主に経営学・経営科学の論文を読んでいく。毎回発表担当者が 1 論文を要約したレポートを全員の前で発表するが、他の学生も必ず当該文献を読んでおき、発表者に対して 質疑および討論をおこなう。

次に、実践面での学習方法について。今年度は一般社団法人社会システムデザインセンターと共同で「社会変革のためのビジネスモデルを考える」というプロジェクトを立ち上げた。その中で、三菱総合研究所、レノボ、NEC、日本ビジネスシステムズなどといった会社と協力してプロジェクトを進めた。なお、こうした実践学習においては、学生側からの「こうしたプロジェクトをやりたい」という提案も大歓迎である。

このように、理論と実践の 2 段階で経営、マネジメントについて学ぶことになる。ただしゼミではこうした実践のための打ち合わせ、懇談会、イベントなどがあるため、理論面での学習を補うものとして、「コーポレートストラテジー」「ケーススタディ」など、ゼミ以外で岩尾が提供している座学講義を履修することが求められる。

# 生方 雅人 ゼミナール

## 演習のテーマ

企業ファイナンス・インベストメント

## 演習の内容

ビジネスパーソンにとってファイナンスはビジネスの公用語・経済の生命線として必要不可欠となっており、企業金融の知識や財務分析、ならびに証券投資理論の応用範囲は家計にまで及びます。

本演習ではコーポレート・ファイナンスとインベストメントに関連する知識を一通り学ぶとともに、各自興味をもったトピックスの分析やプレゼンを通して、ファイナンスの理解を目指していきます。コーポレート・ファイナンスでは企業が企業価値の向上を目指し、ビジネスをおこなう上で必要な資金をどのように調達するか、資金をどの事業（実物資産）に投資するか、株主にどれくらい利益を還元するかといった意思決定について考えます。インベストメントでは株式や債券、デリバティブといった金融商品の価格がどのように決まるのか、金融商品のリスクマネジメントならびに投資戦略について考えます。その他にもファイナンスの研究は多岐にわたります。例えば、あるイベント（例：M&A）が株価や企業価値に与える影響について、行動ファイナンスに関する分析、企業統治に関する考察、債券市場分析、商品先物・株価指数オプションといったデリバティブ市場や為替市場分析、金融市場のグローバル化、リスクの計測とリスクマネジメント、秒単位の取引データを用いた分析、など様々な問題意識から研究が進められています。

演習の前半ではコーポレート・ファイナンス関連の輪読とグループワークを中心におこなう予定です。輪読では教科書を事前に読み、議論に対して自発的に発言できる心構えが望まれます。グループワークではデータや資料を活用して情報を収集し、情報をまとめる力を向上させるために、様々な角度からファイナンスに関する調査と Excel 等を用いた分析にトライし、その成果を発表してもらいます。また、インベストメント関連の輪読や卒業論文のプロポーザルの作成をおこなう予定です。欠席はゼミ全体のモチベーションを著しく低下させるので、正当な理由のない欠席に対しては厳正に対処します。演習の後半では卒業論文に向けた研究活動をおこないます。このような流れでゼミ生はビジネス・財務に自信と好奇心をもって臨めるようになる基盤を作り、自分の今後のキャリアを意識し、キャリアで使える考え方やツールを身につけていきます。

# 大野 弘明 ゼミナール

## 演習のテーマ

金融経済の理論と実証

## 演習の内容

### 【学習内容】

本演習では以下の二点を学びます。

- ・ファイナンスの標準的な内容を体系的に習得すること。
- ・コンピュータを用い、株価、利子率および財務会計データなどの取り方、分析方法、データの解釈方法を習得すること。

### 【到達目標】

以上二点を習得することによって、『進路決定と卒業論文』を戦略的に完遂させることを到達目標とします。

### 【ゼミでの時間の過ごし方】

学生間で対話を重ねることを通じて得られるものは、上述の内容以上に大きな価値があると私は考えています。懇親会、夏期・冬期ゼミ合宿、OBOG会などの開催を計画しています。参加は各自に任せますが、ゼミの一員として積極的に参加し行動することを期待します。私もなるべく参加できるようにします。

### 【OB・OGの進路】

卒業生は金融、不動産、建築、商社、アパレルなど多岐にわたって活躍していますが、銀行、保険会社、証券会社の比率が相対的に高いです。

### 【注意点】

ファイナンスでは計算を避けて通ることが出来ません。現在出来ないことは全く問題としませんが、基礎から学習しますので徐々に慣れて下さい。また、ファイナンスに関する直観的な思考と理解を高めることに重きを置くつもりです。

## 神田 良 ゼミナール

### 演習のテーマ

日本企業の企業戦略

### 演習の内容

企業戦略論を理論的な勉強をするとともに、実際に日本企業を調査して、自分たちで実証的に企業戦略を理論化する。実証研究は事例研究を通して、自分たちで企業行動を説明する仮説を構築する。事例研究では、研究テーマをいくつか絞って、グループで調査・研究にあたる。

今年度は、2つのテーマを考えている。一つは持続的競争力を構築するマネジメントの研究で、対象は老舗企業で、東京商工会議所中央支部の老舗企業塾の協力を得て、老舗企業の経営に関する研究をする。二つ目は地方企業の活性化で、大都市ではなく地方で事業を展開している企業が、地方の資源を活用して、どのようにして地方を超えて事業を展開することができるのかを研究する。日本生産性本部の地方創生カレッジの協力を得て、地方の活性化と地方企業の活性化の連動をどのようにしていくべきかを研究する。

# 小滝 秀明 ゼミナール

## 演習のテーマ

国際商取引論と実践的ビジネススキル

## 演習の内容

国際的な商取引における豊富な事例をもとに、全員が当事者の立場で議論して世界の第一線で通用するビジネスのセンスとスキル、英語力を身に付けます。

毎回のゼミでは、様々なテーマでのロールプレイや会議、プレゼン、ディベートを通して、自然に司会・発言・質疑・問題解決などを体験できます。また、卒業生や業界の著名人ゲストを招いて多業種の事例や世界標準のビジネスの実情を学びます。

年間を通して3～4名で小グループを構成して貿易商社を起業するビジネスプランを練り上げます。商材を決め、輸出入対象国や販売・仕入先を定め、マーケティングを考え、販売管理費をマネージします。貿易商社を起業することで貿易と経営の両面を学べます。将来、起業はもとより部門経営、社内ベンチャー、子会社経営、独立開業などに活かせる実力を自然と身に付けられるわけです。

毎週のゼミではビジネスプランのプレゼンはもちろん貿易等に関する専門書を輪読し発表・討議して、いつ国際取引の舞台にでても通用する基礎もしっかり身に付けます。

学生が自ら考え、体験・披露することに重点を置くのが我がゼミの特徴です。全員が何らかのかたちで毎週アウトプットして刺激し合いながら、世界が求める一流のビジネスパーソンを目指します。必ずや皆さんは「B ゼミでも一年でこれだけ成長できた」と驚き、将来への強みや自信を持てます。すでにゼミ生の多くが商社・航空・観光・物流などの一流企業に進んで世界を舞台に活躍していることから、社会が我がゼミ生に寄せる期待の大きさが伺えます。

ゼミ第5期生よ来たれ、パッションを持って学び、世界から尊敬される一流になろう！

【小滝秀明：明治学院大学卒業、ロンドン在住17年、現在 レアメタル商社社長】

# 齊藤 都美 ゼミナール

## 演習のテーマ

産業組織論、ビジネス・エコノミクス

## 演習の内容

3年次：

以下の3つを実施予定です。

- ① 産業組織論あるいはビジネス・エコノミクスの教科書輪読（教科書はゼミ生と相談）
- ② 時事問題をテーマとしたディスカッション
- ③ 企業見学・工場見学

産業組織論はイメージがわからないと思うので少し説明します。

産業組織論（industrial organization: IO）は、「各産業が「正しく」競争して発展するためには、どのようなルールが必要か？」を考える学問です。

たとえばタクシー産業を取り上げましょう。もしUberが料金も台数も自由に決めたら何が起きるでしょうか？終電が終わった途端に初乗り5千円になるかもしれないし、人口密度の低い地方にはほとんどタクシーがいなくなるかもしれません。もちろん結果的に損をするのは私たち消費者です。ではタクシー料金や台数は決めてしまうべきなのでしょうか？でもUberは既存のこうした仕組みを打破したことで、消費者の支持を得たのでした・・・こうしたことを経済学の道具を使って考えるのが産業組織論です。

（これに対しビジネス・エコノミクスは、より企業目線でビジネスの諸問題を扱います。マクドナルドは価格を時間により変えるダイナミック・プライシングを導入すべきか？外部取締役の導入は企業のパフォーマンスを上げるか？などなど）

世の中はどんどん変わっています。いま何が起きているか知るために、会社や工場見学も実施したいと考えています。

4年次：

各自テーマを決めて卒業論文を執筆します。テーマは経済に関する限り自由です。また3年次同様、時事問題をテーマにディスカッションを行います。

応募条件は以下の3つをすべて満たすことです。

- ① 勉強に限らず何でも謙虚に学ぶ姿勢を持つこと
- ② 他のゼミ生とのコミュニケーションを大切にすること
- ③ 卒業論文を執筆すること

## 手塚 奈々子 ゼミナール

### 演習のテーマ

イタリア文化史

### 演習の内容

西洋文化は、キリスト教とギリシア文化で成立している。この B ゼミでは、学生がイタリア文化史を通して西洋文化を深く理解し把握することを目的とする。

イタリアは、古くは紀元前 753 年のローマ建国にさかのぼる。その後のローマ帝国はよく知られているが、ギリシア文化を身に着けたイタリアはヨーロッパの中心となった。そして、ローマ帝国の拡大により、ローマの言語であるラテン語が西洋諸言語のもととなっている。また、代表的な芸術であるルネサンスもフィレンツェから始まっているように、1517 年の宗教改革に至るまで、イタリアは西洋文化の中心であった。

本ゼミでは、ローマの建国から現在に至るまでのイタリア文化の歴史を中心テーマとする。

ゼミの進行として、「演習 B1」では、ギリシア文化・キリスト教・イタリア史を確認し、イタリア文化史に関する下記の教科書を使用する。学生は、資料を毎回あらかじめ読んできて、ゼミで各自意見を述べる。発表箇所について各自プレゼンテーションする。学期末に自分の発表についてレポートを書き、教員に提出し、レポート面接を受ける。

「演習 B2」では、下記の教科書の発表が終了した後、各自関心を持つイタリア文化の歴史の中から研究テーマを決め、各自発表する。また、他の学生の発表を聞いて自分の意見を述べる。学期末に自分の発表についてレポートを書き、教員に提出し、レポート面接を受ける。

学習意欲があり、毎回予習したうえでゼミに出席し、自分の意見を述べ他人の意見も聞き話し合えること、プレゼンテーションやレポートの提出期日を守り果たす学生のみ履修すること。

教科書；

- ・遠藤周作『聖書のなかの女性たち』、講談社文庫。
- ・藤沢道郎『物語 イタリアの歴史 解体から統一まで』、中公新書 1045。
- ・藤沢道郎『物語 イタリアの歴史 II 皇帝ハドリアヌスから画家カラヴァッジョまで』、中公新書 1771。

他に、関連する参考書をゼミで紹介する。

なお、「キリスト教の基礎 A/B」を既に履修済みであること（手塚以外の教員からでも可）。3 年次に「西洋文化史 1」を履修することが望ましい。

## タット リドー ゼミナール

### 演習のテーマ

Development Economics

### 演習の内容

This seminar focuses on International and Development economics, i.e. the economic issues in developing countries. Students will learn theories of economic growth and development, and international trade. In addition, selected practical topics pertinent to the problems of developing countries such as the problems of poverty and inequality, population growth and urbanization, internal and international migration, environment, trade policies, balance of payment, financial and economic crisis, foreign direct investment(FDI) and official development assistance (ODA) will be discussed. In the seminar, students are expected to actively participate in the discussion and make as a presentation on the topics of their interests or from reading materials on developing countries. The seminar will enable students to understand various development issues in developing countries and to be able to comprehend the differences between developing and developed countries, particularly between developing countries in Southeast Asia and Japan. This course is helpful for students who are interested in working in other countries (as there are many Japanese companies outside Japan, especially countries in Southeast Asia) .

## 西原 博之 ゼミナール

### 演習のテーマ

国際経営論、異文化マネジメント、中国、台湾などの華人経済圏における企業の経営

### 演習の内容

同演習の研究対象は、「国際経営」、「異文化マネジメント」、あるいは、「グローバル人材育成」、「企業の海外進出」「組織の国際化」などに関する研究である。

卒業論文のテーマについては以上の関連であれば特に問題はない。ただし、担当教員の研究内容や主たる調査対象地域が、中国、台湾などの華人経済圏における企業の経営であることから、関連の指摘、質疑応答などが多くなると考えられる。

演習の目的は、国際経営に係わる知識を身につけて理解を深めることである。したがって、演習を通して以下の能力を養う。

- 1) 情報機器を用いたプレゼンテーション方法の学習
- 2) 共同作業を通してレジュメの作成、報告をするなど、プロジェクト管理能力の育成
- 3) ケース・スタディや実証研究を通して理論的な考察や分析能力の向上
- 4) 卒業論文の作成により、4年間、大学で学んできたことの集大成を行う。

演習では、以下の通りに進めていく。

第1に、国際経営に関する基本的な文献を輪読する。その際、少人数のグループごとにレジュメを作成して国際経営に関する基礎知識を養う。

第2に、国際経営に関する事例などを用いて討論を行う。その際、各グループが事前に課題を準備する。演習時間は、担当班が、プレゼンテーションを行った後、グループ間の質疑応答という形式で演習を進めていく。なお、事例に関連して、実証研究の方法論などについても触れていく。

第3に、卒業論文の執筆方法についての確認を行う。同時に、卒業論文のテーマの設定、フレームワークの作成、関連文献の収集及びまとめなどにより、設定した研究課題がふさわしいか、卒業論文にまとめられるかについて検証する。

卒業論文作成までの具体的な演習活動は以下の通りである。

- 1) 個々の研究テーマの設定 (3年次の学期末に提出)
- 2) 卒業論文タイトル及び研究計画について紹介 (4年次、春学期)  
(報告、計画書の提出がなかった場合、秋学期の履修を許可しないことがある)
- 3) 中間報告 (報告がなかった場合、卒論提出を許可しないことがある)
- 4) 調査研究の概要に関するプレゼンテーション (卒論発表会など)
- 5) 担当教員の許可を得た上で卒業論文を提出 (年末までに原稿提出)

以上

# 広瀬 要輔 ゼミナール

## 演習のテーマ

計量経済学・データ分析

## 演習の内容

経済・経営の分野では様々なデータを入手することができます。本ゼミでは、これらのデータを分析することで経済・経営を理解していくことを目標とします。

演習では、初めにデータ分析に関する知識と分析ソフトの操作方法を習得していきます。具体的には、計量経済学に関する入門書を参加者で読み進め、分析ソフトを動かしていくことにより分析方法を身につけていきます。その後、実際にデータ分析をしてもらい、分かったことなどを発表してもらいます。4年次では各自で自由に設定したテーマにそって分析を行い、卒業論文の完成を目指します。

# 藤田 晶子 ゼミナール

## 演習のテーマ

企業の財務報告とその分析

## 演習の内容

企業の財務報告にかかる国際的な開示制度や会計基準をしっかりと理解し、それをどのように分析に活用していくのかを調査研究する。

具体的には、次の内容を考えている。

- ① 国際的な開示制度とそのもとでの財務報告
- ② 会計基準の役割と国際比較
- ③ 財務報告と企業分析
- ④ M&A の分析
- ⑤ 研究開発活動とその分析
- ⑥ 広告宣伝費とその分析
- ⑦ 非財務情報の役割と分析手法
- ⑧ その他

## 松園 保則 ゼミナール

### 演習のテーマ

Public Speaking

### 演習の内容

This seminar course focuses on public speaking of all kinds.

Only in the academic year of 2020, the “pre-seminar” is conducted during the fall semester.

In the pre-seminar, students make short presentations several times about any topics that they would like to share with others. Through this presentation activity, students are expected to get used to speak in public and begin exploring how to make their presentations better.

In the third year of 2021, students learn about the basic principles of public speaking and examine case studies of professional speakers making great speeches, in order to explore possible ways to engage as a confident and professional speaker in public. Also, in preparation for writing a thesis in English in their final year of 2022, students write multiple-draft essays that have these supported by logical arguments and incorporate information from texts.

In the fourth year of 2022, students learn in-depth about theoretical aspects of public speaking in terms of text organization, linguistic features, delivery features, and psychological aspects, and understand how to apply these aspects when analyzing the performances of public speakers. Students are then asked to select and examine a couple of public speakers by using these aspects in order to identify their own ways to become a truly professional speaker. The analytical viewpoints and findings from their examinations will be illustrated in their graduation thesis.

In every seminar session during two and half years, students are expected to actively work on group and class discussions in English.

# 山田 純平 ゼミナール

## 演習のテーマ

企業会計

## 演習の内容

初心者でも参加できるように、企業会計の基礎から始めたいと思います。

まずは決算書の分析について説明した本を読んだ後、各自が実際の決算書を分析し、その結果を報告してもらいます。その後、企業会計のルール全般を学べる教科書を題材として、問題点を議論する予定です。ここでは、企業会計に関する基礎知識を学ぶとともに、基本書を読んで重要な箇所をまとめる能力を養うことも意図して行います。

その他に、例年は他大学との研究報告会で報告をしてもらっています。共同で報告する作業を行うとともに、大人数の前で報告し質疑応答ができることを目的としています。3年秋学期に留学に行く学生については、研究会での報告は免除します。

最後に、これらの勉強の総仕上げとして、卒業論文を執筆することになります。